

令和2年度教育支援係コーディネーター及びスクールソーシャルワーカーの活動状況報告
(4月～3月分) について

教育支援係が対応するCO及びSSWの主な事案は、いじめ、不登校、特別な支援を要する児童・生徒、養育が困難な家庭等である。学校管理職を経験した教育支援コーディネーター3人（1月から2人）と、社会福祉士の資格を有するスクールソーシャルワーカーが3人（10月から2人）配置され、主に学校や関係機関との連携を図る業務に当たっている。

1 対応案件数（延べ件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	令和元年度	令和元年度との差
対応案件数	192	178	299	301	190	207	232	219	154	141	184	210	2,507	2,400	107

2 新規案件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	令和元年度	令和元年度との差
新規案件数	1	2	10	8	5	7	8	9	4	4	8	8	74	103	-29

3 主訴別実数（集計期間：4月から3月）

主訴内容	件数				令和元年度	
	小学生	中学生	その他	合計		
学 校	不登校	43	36		79	71
	教員等への不信	3			3	12
	進路・転校	6	6		12	18
	学校選択				0	0
	いじめ	2	1		3	3
	学習に関する問題	8	1		9	8
	非行（万引き・恐喝等）				0	1
	学校の対応について	2	2		4	11
	小計	64	46	0	110	124
	障 害	発達障害	21	2		23
知的障害		4	1		5	6
言葉・きこえ					0	1
身体障害					0	0
その他の障害・疾患		1	1		2	6
小計		26	4	0	30	44
家 庭 環 境	親の養育不安	35	16		51	62
	虐待・虐待の疑い				0	0
	家庭内暴力（DVを含む）				0	1
	養育困難	3			3	1
	経済的な困難				0	0
小計	38	16	0	54	64	
落ち着きなし				0	0	
集団不応				0	1	
小計	0	0	0	0	1	
合計	128	66	0	194	233	

4 コーディネート先件数

(対象は、3主訴別実数)

関係機関名	件数
学校	183
子ども家庭支援センターすこやか	41
教育相談所	28
太陽の子	35
病院・クリニック	26
はしうち教室	7
転校先学校	10
キーツ	2
ここあ	5
学務課	8
白百合女子大学発達臨床センター	3
放課後等デイサービス	6
多摩児童相談所	5
通級指導者	7
警察	3
その他	33
合計	402

※事案によってコーディネート先が重複している

- 太陽の子は、不登校児童が通う適応指導教室
- はしうち教室は、不登校生徒が通う不登校特例校分教室
- 不登校プロジェクトは、東京学芸大学の松尾教授研究室が連携して行っているメンタルフレンド（不登校生徒への大学生の派遣）やテラコヤスイッチ（大学生による不登校生徒の居場所づくり）
- ここあは、調布市子ども・若者総合支援事業の相談・居場所及び学習支援事業
- 民間施設は、キーツ、放課後等デイサービスなど
- その他は、進学先中学校、障害福祉課、生活福祉課、フードパントリー、民生主任児童委員など

5 相談者（対象は、3主訴別実数）

相談者	件数
保護者	132
小学校	27
中学校	12
その他	23
合計	194

【主な特徴】

- 新規案件数は、29件減少している。
- 主訴内容（実数）は、前年度比で39件減少している。内容としては、不登校が全体の約40%と最も多く、次に、親の養育不安、発達障害の順に多くなっている。
- コーディネート先では、学校が最も多いが、太陽の子も増えている。コーディネーター室と教育相談所が同じ教育支援係になったことから、連携がさらに深まっている。
- 相談者は、保護者が全体の約68%と最も多い。その他には「終結」を含む。